

最低賃金の大幅引き上げを！

報告 小内

神奈川県 lowest賃金がこの10月4日から1225円になった。過去最大の引上げ額（63円）ではあるものの、この間の生活必需品を中心とした物価高騰をカバーできていない。最賃近傍で働く労働者の生活は厳しい状況のままである。さらに問題なのが、他府県のことではあるが、改定額の発効日が11月以降のところは27あり、うち6県は越年、秋田県に至っては3月31日改定というありさまである。（秋田県は実質40円の引き上げでしかない。）地域別最賃の問題性が浮き彫りにされた形である。

私たち神奈川県共闘は、今年も最賃大幅引上げを取組んできた。1. 3. 5. 6. 7. 10月に駅頭などでの署名・宣伝行動を、7月にはFF1500実行委員会の取り組みで県共闘を含む21団体が県最低賃金審議会に意見書提出の共同行動を取り組んだ。私たちが目指す「全国一律1500円以上」の実現には至っていないが、運動を止めるわけにはいかない。労働者が安心して生活できる社会を共に作って



（新杉田駅頭での情宣）



（9/23さよなら原発全国集会代々木集会）

9月23日秋分の日、代々木公園で開催の「さようなら原発9.23全国集会」に県共闘傘下労組の仲間と共に参加しました。全国からは4500人が集まり、集会とデモを取り組みました。

午後1時半から始まった集会は、呼び

命と生活を守る闘いを前進させよう！

全国一般神奈川第28回定期大会開催

報告 八木

9月21日、全国一般神奈川の定期大会が行われ、全議案が可決、承認されました。大会来賓は、全国協から大野委員長、望月書記長、全国一般東京労組からは齊藤氏、県共闘から小内事務局長、吉良副議長、寿日労の由良氏、全国一般東京南部から中島委員長（懇親会より参加）、顧問弁護士の穂積弁護士、嶋崎弁護士に出席を頂いて力強い連帯のご挨拶を頂きました。終わりの見えない物価高騰の中、中小企業で働く非正規労働者の実質賃金は上がりず、日々の生活はますます困窮しています。これは長期にわたる自公政権のもとで、労働の対価である賃金が労働者に還元されずに一部の大企業や投資家による搾取を止められなかった結果であり、言い換えれば労働組合の組織率の低下が引き起こした必然ともいえます。私たち全国一般神奈川は、地域合同労組として地域・職場で権利と生活を守る砦として日々活動を進めてきました。新執行部体制のもと、労働組合を職場や地

域に根付かせるため、組織化に全力で取り組みましょう。

一方で解雇や雇止めなどの人権侵害への闘いや非正規労働者の待遇改善への取り組みは職場を超えた仲間の支援や連帯が不可欠です。最賃情宣への取り組みや今後山場を迎える争議に向けて大会で確認した団結・連帯の力で闘いに結集していきましょう。また、医療や介護報酬等、原発再稼働など労使交渉だけでは解決できない社会インフラ現場の危機的状況の打開には、組合の社会的発信力を高めていくため、全国の仲間たちとの連帯にも積極的な参加が求められます。新執行部体制となりましたが、今後とも県共闘、地域の仲間と共に闘っていきます。がんばりましょう。



（団結ガンバロー新委員長が先頭に）

26春闘を共に闘おう！第7回郵政産業ユニオン神奈川支部定期大会開催

郵産ユニオンは、9月13日第7回支部定期大会を、横浜・県民活動サポートセンターで開催し、25年度の闘う方針を決定し、活動をスタートした。

大会は、桐ヶ谷書記長の進行で始まり、24年度の支部活動として、25春闘の取り組み、期間雇用社員の均等待遇署名行動の闘い、25年の最賃の闘い報告がされ、組織拡大の報告では、今期は新組合員が加入し積極的に活動に参加していただいている。組織拡大は支部存続のためには欠かせない活動で、ユニオン本部も組織拡大に向けて、春、秋の総対話運動を展開し組織拡大に努めている。さらに、未来塾の開催で組織強化も図っている。一方の職場の労働環境は、人員減による労働強化、社員間格差拡大、コミュニケーション欠如、コンプライアンス形骸化、パワハラ常態化と職場は荒廃している。これら課題の相談先は職場内では私たち郵産ユニオン。その意味では、組織拡大のチャンスは目の前にあると提案し論議が始まった。議案はすべて可決され25年の闘う方針は確認された。組織体制は、桐ヶ谷支部長、竜田書記長の新体制を確認し、労働組合の組織率が減少と言われていますが、県共闘の皆さんと労働運動の発展に向け共に闘っていきます。

報告 佐藤

さよなら原発・気候危機を考えよう！9.23全国集会参加報告

かけ人の鎌田慧さんの挨拶から始まり、落合恵子さんが主催者挨拶で登壇しました。挨拶では、福島原発事故から14年が経過し、政府は「原発回帰」に動いていると現状を指摘。そして原発をなくす運動を「今から、あなたから、

ここからはじめよう！」と訴えました。

その後のパネルトークが行われ、福島で原木しいたけ生産者から原発事故に伴い、厳しい状況に追い込まれた当時の生産現場の苦悩と深刻な原発事故被害状況の報告がありました。